

Doc 35 - P1

九國條約會議參加方に關する白國政府の帝國政府宛  
招請狀

口 上 書

米國政府の同意を以て爲されたる英國政府の要請に従ひ白耳義  
王國政府は千九百二十二年二月六日の九國條約署名國に對し同條  
約第七條に基き東亞に於ける事態を検討し且該地域に行はるる遺  
憾なる紛争の終結を促進すへき和協手段を攻究する爲本月三十日  
ブリュッセルに會合せんことを提議す

一九三七年十月二十日 東京に於

I, undersigned,  
hereby certify that  
this is true copy  
of the official trans-  
lation into Japanese  
of the Invitation to  
the Brussels Con-  
ference sent by  
the Belgian Govern-  
ment to the signatory  
Powers of the Nine  
Years Treaty.

Y. Isono  
Chief of Archives Section  
Foreign Office

外  
務  
省

一九三七年十月二十七日帝國政府回答

帝國政府は米國政府の同意を以て爲されたる英國政府の要請に従ひ千九百二十二年二月六日の九國條約署名國に對し同條約第七條に基き東亞に於ける事態を検討し且該地域に行はるる遺憾なる紛争の終結を促進すべき和協手段を攻究する爲本月三十日ブリュッセルに會合せんことを提議せられたる本月二十日附白國政府の招請を正に受領せり

國際聯盟總會は本月六日日支事變に關し採擇せられたる報告書に於て當事國一方の陳述に依據し現に帝國か支那に於て執りつつある行動を以て九國條約に違反するものと斷定したり今次帝國の支那に於ける行動は支那側の極端なる排日抗日政策の強行特に實力を以てする挑發行動に依り餘儀なくせられたる自衛措置にして九國條約の範圍外たることは已に帝國政府の聲明せる所なり聯盟總會は更に進て其の決議に於て支那に對し精神的的支持を表

明し且聯盟國に對し支那の抵抗力を弱め現在の紛争に於ける支那の困難を増大せしむる効果を有するか如き行動を差控へ且各個に支那を援助し得る程度を考慮すべきことを勸奨したり右は明に日支兩國の眞摯なる協調に依り東亞の平和を具現し依て世界の平和に寄與する所あらんとする帝國の公明なる意圖を無視し紛争當事國の一方に加擔し其の敵對意識を鼓吹するものにして決して本件紛争の解決を促進する所以に非ず白國政府の招請には今次會議と聯盟との關係に付何等言及する所なきも聯盟か前記決議中に於て九國條約當事國たる聯盟國の會議を示唆し居り又英國政府の今次會議招集の要請に同意せる米國政府は十月六日聯盟の決議を支持する旨を聲明し居る事實に鑑み帝國政府は今次會議か聯盟の決議に關聯して招集せられたるものと斷せざるを得ず而して聯盟は前項所述の如く帝國の名譽に關する斷定を下し又帝國に對する非友誼的決議を採擇せる事實あるに顧み今次開催せらるべき會議に於

ては到底關係國間の充分にして且隔意なき交渉を行ひ日支間の事變を現實に即せる公正妥當なる解決に導くことを期待し難しと認めざるを得ず

加之今次の日支事變は東亞の特殊事態に基因し且日支兩國の生存に重大關係を有するものなるを以て東亞に於ける利害の程度相異り甚しきは殆ど利害關係を有せざる國をも含む多數國の會議に依り之か解決を圖るは却て事態を紛糾せしめ之か正常なる收拾に大なる支障を及ぼすへきは帝國政府の確信する所なり

以上の觀點よりして帝國政府は自國政府の招請を受諾し得ざるを遺憾とす抑も今次の事變は支那政府が多年國策として國民に抗日意識を扶植し其の排日運動を獎勵するのみならず赤化勢力と勾結し排日抗日の風潮を激化して東亞の平和を脅威したる結果に外ならず從て之か解決の要諦は支那政府に於て東亞の安定に對する日支共同の責任を自覺し自肅自省以て日支提携の政策に轉向するに在り帝國

Doc 35-P 5

の列國に期待する所は列國か此の要諦を充分に認識することにし  
て此の認識に基く協力のみ東亞安定に寄與することを得へし  
昭和十二年十月二十七日

I, undersigned, hereby  
certify that this is true copy  
of the original in Japanese  
of the Reply of the Japanese Govern-  
ment to the invitation to the  
Brussels Conference sent by  
the Belgian Government, dated  
October 27th, 1937.

M. Sono.  
Chief of Archives  
Section  
Foreign Office.

外  
務  
省

外  
務  
省



Doc 35-P6

一九三七年十一月七日在京白國大使より外務大臣  
に手交せられたる通告全文（會議再招請）

口 上 書

一、十一月三日ブリュッセル會議參加國代表は十月二十七日白國  
政府の招請狀に對する日本帝國政府の回答並に右回答に附隨せ  
る聲明を了知せり

二、日本帝國政府は右文書中に於て就中支那の領土を侵略するが  
如き意圖なきのみならず却て支那國民の物質的<sup>質</sup>的精神的向上を祈  
念するものにして又外國の在支權益は飽く迄之を尊重しつつ列  
國と共に文化的及經濟的協調を期し居らるる次第を表明せられ  
たり

三、右聲明に於て述べられたる諸點は千九百二十二年二月六日華  
盛頓に於て署名せられたる條約（九國條約）の根本原則の或も  
のを表はせるものなり該條約締約國は右に關する日本帝國政府

の聲明を了承せり

四、加之日本帝國政府は日本に依る九國條約違反の問題を發生する餘地なきことを言明せられ且支那政府に對し幾多の苦情を陳述せられたり支那政府亦同條約の違反ありたりと爲し日本政府の苦情を述べ居れり

五、九國條約は正に斯の如き事態を目的とする規定を包含すブリュッセルに於て行はれつつある意見の交換は本質的に此等の規定に基礎を置き第七條に規定せらるる充分にして且隔意なき交渉を構成するものなることを茲に指摘するを要す本會議は締約國間の紛争の平和的解決を援助する目的を以て招集せられたり該紛争の當事國の一方即ち支那は會議に代表を派遣し會議の事業に完全に協力する用意あることを表明せり會議は其の協力特に望ましき他の當事國即ち日本國の不參加を遺憾とす

六、日本帝國政府は「東亞に於ける利害の程度相異り甚しきは殆

と利害關係を有せざる國をも含む多數國の會議に依り之が解決を圖るは却て事態を紛糾せしめ之が正常なる收拾に大なる支障を及ぼすべしとの確信」を表明せられたり

茲に注意の要あるは同條約の規定に依れば同條約締約國たる總ての國は該條約か之に賦與する權利を行使する資格を有し、東亞に權益を有する總ての國は目下の敵對行為に依り影響せられ居り且全世界は該敵對行為の平和及國際團體の各員の安全に對する反響を憂慮し居れることなり

然れどもブリュッセルに會合せる諸國代表は此の點に關し日本の有する疑念を解消し得べしと思考す即ち特に指定せらるべき少數國代表と意見交換を爲す爲日本帝國政府が一名若は數名の代表を派遣せらるる意思ありや否やを承知致度し右意見の交換は九國條約の範圍内に於て且同條約の規定に準據して行はるべきものとす



Doc 35-P 9

I, undersigned,  
hereby certify  
that this is true  
copy of the official  
translation into  
Japanese from  
French text of  
the renewed invi-  
tation, under date  
of November 7, 1937,  
to participate in  
the Brussels Conference  
of the Signatory Powers  
of the Nine Powers Treaty.  
Y. Isono.  
Chief of Archive Section  
Foreign Office.

右意見交換の目標とする所は前記の點を明にし紛争の解決を求  
むるに在るへし敵對行爲の繼續を遺憾とし、平和的處理のみが  
本件紛争の永續的且建設的解決を招來し得べきことを確信し且  
調停方法の有効なるへきに頼しブリュッセルに會合せる諸國  
代表は前記の如き處理の實現せんことを切望するものなり  
七、會議參加國は其の提案に對する日本帝國政府の態度を出來得  
る限り速に承知せんことを重視するものなり  
千九百三十七年十一月七日東京に於て

## 武府會議再招請に對する帝國政府回答

帝國政府はブリュッセル會議に關する十一月七日附口上書を受領したり

帝國政府は右口上書に開陳せられたる會議參加諸國の見解は慎重なる考慮に出づるものなるを諒とするも不幸にして帝國政府が十月二十七日附回答及聲明中に明示したる其の見解及方針を變更せしむるに足見ざるを遺憾とす會議參加諸國は今次事變の平和的解決に關し帝國代表と九國條約の範圍内に於て且同條約の規定に準據して意見交換を行ふ爲少數の國の代表を指定する用意ある旨を表明せられたり然る處帝國政府は今次帝國の行動は支那側の挑戰に餘儀なくせられたる自衛行動にして九國條約の範圍外なるを以て同條約の適用問題を討議するの餘地なしとの見解を堅持するものにして帝國を以て同條約違反者なりとし乍ら同條約の規定に基く會合に招請せらるるも之に参加するか如きは帝國政府の到底

受諾し得ざる所なり

抑々今次の事變は東亞の特種事態に基くものなるか故に直接切實なる利害關係を有する兩當事國間に於て處理することに依り最公正妥當なる解決に達することを得べく今次會議の如く集團的機構内に於て之を處理せんとするときは徒に兩國民心を刺戟し却つて事變の圓滿解決を阻害すへきは帝國の渝らざる所信なり若し夫れ列國に於ても敘上の見解を篤と了解せられ現實の事態に即して東亞の安定に寄與せらるる所あらは帝國政府の欣幸とする所なり會議參加國は東亞に權益を有する總ての國は目下の敵對行爲に依り累を蒙り且全世界は該敵對行爲の平和及國際團體の各員の安全に對する影響を憂慮し居る旨開陳せられたる處此の點に關しては帝國累次の聲明に明なる通帝國は外國の在支權益を尊重する爲凡ゆる努力を爲し居ること竝に今次事變の圓滿なる終熄に依る東亞の和平確立に最大の關心を有するものなることを指摘せんと欲

Doc 35-P12

す

昭和十二年十一月十二日

I, undersigned hereby  
certify that this is true copy  
of the original in Japanese of the  
statement of the Japanese Government  
<sup>under date of November 12th, 1937</sup>  
in reply to the renewed invitation  
to the Brussels Conference

Y. Isono.

Chief of Archives Section,

Foreign Office

外

務

省